

# 土浦市中心市街地活性化協議会

## 第 25 回会議議事録

日時 令和 5 年 8 月 24 日 午後 1 時 30 分  
会場 土浦商工会議所

1. あいさつ
2. 報告事項
  - (1) 第 24 回土浦市中心市街地活性化協議会
  - (2) 委員の変更
3. 協議事項
  - (1) 第三期土浦市中心市街地活性化基本計画  
について

## 第25回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

開催日時 令和5年8月24日(木)午後1時30分  
開催場所 土浦商工会議所  
出席者数 委員18名(代理2名)  
出席者名 中川喜久治(土浦商工会議所会頭)  
大澤 義明(筑波大学教授)  
酒井 忍(土浦都市開発(株)常務取締役)  
石田百合子(土浦商工会議所女性会監事)  
佐藤 亨(土浦市産業経済部長)  
的場 弘幸(土浦商店街連合会会長)  
関 和郎(土浦商店街連合会副会長)  
川野 重匡(東日本旅客鉄道(株)土浦駅長)  
横山 恭教(NPO法人まちづくり活性土浦理事長)  
竹中 紀博(土浦市地区長連合会副会長)  
鈴木 康文(つくば国際大学教授)  
清水 勉(土浦市金融団)  
内村 尚史(土浦市金融団)  
佐藤 之則((公社)茨城県宅地建物取引業協会土浦・つくば支部幹事)  
堀越美樹朗(水郷つくば農業協同組合常務理事)※代理  
大久保和男((一社)霞ヶ浦市民協会副理事)※代理  
永井 昭夫(茨城県建築士会土浦支部副支部長)  
寺田 賢((一社)茨城県ハイヤー・タクシー協会県南支部会計)

(土浦市)

福澄 雄佑(都市整備課長)  
石引 康博(都市整備課長補佐)  
長坂 英治(まちづくり推進室長)  
藤澤三智彦(まちづくり推進室主幹)

(事務局：土浦商工会議所)

松井 修一(専務理事)  
加賀美吉彦(事務局長)  
寺田 英明(商工振興課長)  
菅原 伸司(商工振興課長補佐)

## 1. あいさつ

(中川会長)

本日は暑い中、お集まりいただきありがとうございます。暑い暑いといわれるだけで暑くなる感じがしますが、地球温暖化というか地球沸騰の時代だなという方もいるくらいで、経験したことがないような状況であると思います。私自身もこんなに暑い夏というのは無いと感じます。去年までは熱いと言っても涼しい日があったり、朝晩が涼しい日があったのですが、1日通して30度を超える日が続くというのは生まれてこのかた経験したことが無いような状況でありますので、未知の世界との闘いという感じになっています。

さて、この中心市街地活性化協議会は、今回で25回目になります。5年で一期という形で、今回は2期の最終年度で、二期の成果を踏まえながら三期目に挑戦するという大きな節目の時期になっています。

コロナの問題やロシア・ウクライナの問題がありますが、コロナはパンデミックという世界を震撼させる大きな出来事でしたし、戦争も局地戦ではなく、欧米とロシアとの闘いのようにとんでもないことが起こっている時代でありますので、どんなことが起こるかわからない状況下にあると思います。

それでも我々は土浦市の活性化に向けて、問題に対して活動していくのですが、そのベースとして10年という流れの中で、ウイルスによるパンデミックや戦争が起こったり、また人口減少が進んでいくとか色々な変化が起こる時代でありますので、その中でどのように問題点をしっかり抽出していくかということが、毎年問われているのだと思います。

この地区の活性化について私は10年前に大澤先生からご指導をいただき、中心市街地活性化協議会に会長として携わっていますが、単なるどこにもある同じようなまちではなく、「土浦ならでは」という特徴を持った活性化を考えていくことが必要と思う中で、一番この協議会の肝というのは、土浦港から亀城公園までという駅前の限定された素晴らしい地域を中心市街地と位置付けたわけでありまして、これは大きな意味があると思っていました。霞ヶ浦水郷国定公園の入り口である土浦というポジションを土浦港という、水辺から亀城公園という歴史文化を継承している中での活性化ということ。もう一つは地域的なロケーションとして、首都圏から50kmから60kmくらいで、時間にして1時間以内に首都圏の人口がすぐにでも来られるような地域であるということもあり、土浦市中心市街地は大きな特徴があると思います。

10年前に必要なと思ったことは、当時この協議会でもTXを土浦へということをお話しましたが、その頃は実現性は無いだろうという方が多かったのですが、それが皆さんご承知のように本年度、茨城県の総意として常磐線とTXの結束を県の目標として、掲げて活動していくことが決定したことが、非常に意義のあることだと思っていますし、協議会としてもそういう歴史や文化、地形的なものであるとか、交通の要所としても国際線のある3つの飛行場に1時間以内で行けるとか、常磐線とTXが繋がれば非常に大きな可能性を持つ鉄道のハブになることは間違いないし、高速道路についても何もしなくても人が張り付いてくるのはこれからじゃないかと思っています。特に常磐線についてあと数年後には羽田への乗り入れも正式に決まるということも聞きますし、TXとの関係も含めてどういう発展があるのかという、大変期待感のある時期だと思っています。

土浦市としてもTXの延伸を踏まえた計画になっていくのだろうと思いますので、本日の会議は協議会としても世の中の環境変化を踏まえながら二期の反省をしっかりと捉えて、三期に向かうための重要なものになると思いますので、限られた時間ではありますが効率良く皆様のご意見を集約しながら進めてまいりたいと思いますので、会議の進行にご協力いただくことをお願い申し上げながら、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

## 2. 報告事項

定足数報告

(事務局)

規約の定める1/2を満たしている事を報告。

(1) 第24回土浦市中心市街地活性化協議会

(事務局)

資料④ 議事録をもって報告に代えた

(2) 委員の変更

(事務局)

副会長の土浦都市開発(株)常務取締役の藤田弘文氏から同じく酒井忍氏に変更。

### 3. 協議事項

第三期土浦市中心市街地活性化基本計画(案)について

(中川会長)

それでは、暫時議長を務めます。活発な協議になりますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

本日の議題は、土浦市が策定した第三期基本計画(案)に対して皆さんからのご意見をいただくことです。

本日のご発言をもとに、本協議会からの意見書を取りまとめていきますので、忌憚のない意見をいただきたいと思います。

まずは、土浦市より三期計画(案)について土浦市都市整備課の藤澤さんよりお願いいたします。

#### 【説明】

土浦市都市整備課藤澤主幹より、第二期計画の成果と課題、第三期計画基本指針、第三期計画目標指標、第三期目標達成のための事業、計画(案)のパブリックコメントについて説明。

(竹中委員)

第二計画の成果と課題の中に、成果2に新規出店新規出店と企業数が増加とありますが、目標が累計65店舗ありますが、65店舗がどんどん増えているというには感じられません。これは出店だけで純増なのかどうか、実際に65店舗のうち何店舗くらい残っているのか。65店舗増えていますよということなら、それはそれでいいのですが、第三期の計画はそれを5年間で75店舗にしますということで、今期よりも10店舗増やすということでしょうから、今後純増の中で何店舗残っているのはということを補助的に調べてほしいと思います。

(長坂係長)

新規出店・起業数については新しく出店した数を表しては、出店後空き店舗になったものについては、考慮していないものとなっています。店舗の増加数に関しましては、資料①30ページをご覧ください。こちらは中心市街地の空き店舗の状況になりますが、近年は76から77店舗でして、おおむねほぼ横ばいとなっております。

(中川会長)

実際に実感として、増えているという感じにはないかもしれませんが、その辺も検証しながら進んでいっていただきたいと思います。基本的に中心市街地基本計画が採択されれば、それぞれの事業に対する補助金を得られるという大きなメリットがあるということが中活の大きな所だと思います。一期目は最大5億円補助の補助率だったと聞きましたが、三期目の補助率はどうかのでしょうか。

(長坂係長)

補助率に関しましては、それぞれの事業の内容によりまして、例えば空き店舗開業支援であれば、5割が国から補助を受けることができます。

(鈴木委員)

この計画を皆さんに知ってもらうことが大切だと思います。私、勤務地は土浦で居住地は違うのですが、例えば、こういったものがあるということを知ることが、

ある程度サンプルじゃないですけど、周りの状況が見えるだとかを市内外の人たちにも、こういうルートがあって、こういうものもあるということがアプリだとかで見られて、そういったコースを辿れるようにできるというものがあると、もっと活性化が広まっていくのかなと思います。

(長坂係長)

広報については、非常に大事だと思っておりまして、それぞれの事業がありますので、観光であったりイベントであったり、それぞれ SNS であったりホームページとか活用したりとかパンフレットであるとか、そういったもので周知を図っていきたいと考えています。

(中川会長)

10 年前に中活での一番の肝というのは霞ヶ浦があるということが土浦の特徴であることは間違いないので、その中で茨城県というのは 1 人 1,000 円だと思いますが人頭税のように森林湖沼環境税というのを払って森林を守るのはもちろんですが、霞ヶ浦を綺麗にしているということも実際やっているのですが、県民や県民以外になかなか伝わっていないことも含めて、我々は常にきれいにしているということを見える化を図るべきだと思う所です。処理場で 1 日 6 万トンの浄化した水を霞ヶ浦に入れていますが、それを見える化ということで、噴水が浄化した水を排出するという環境にも良い形で、我々県民は毎日霞ヶ浦を綺麗にしているんだということの見える化を図って提案した中で、世界一というのが実態と合わないイメージが出てしまったので、本質的には三期の計画にも広域交流拠点の整備事業というも含めて、霞ヶ浦もこの 10 年で良かったということはサイクリングロードですね。さらにナショナルサイクリングルートとしての位置づけが日本 3 大ルートになって、多方面からのサイクリングに来る方も増えている中で霞ヶ浦に拠点を設けて、浄化も含めた形で改めて三期でも頑張ってもらいたいと思っています。

(福澄課長)

土浦港周辺にりんりんポートができて、その隣に広大な土地があって、そちらに民間企業に進出してもらって、官民連携での拠点づくりを検討させていただいているところですが、コロナ禍がありまして特に観光事業者の方たちがどうしてもコロナによる影響がありまして現在休止中という形になってはいますが、今後新たに民間事業者と事業を検討していけたらと三期計画の中で進めていきたいと思っています。

(中川会長)

茨城空港も含めて国際都市という形に踏み出せるかというチャンスというかインバウンドも期待することも含めて、この地区というのは成田、羽田、茨城空港というのを含めて、都内への観光人口以上の数を引っ張って来られる部分もあると思いますので、建物だけで済ますのではなく、大きな補助がありますのでこれを有効に使ってほしいです。また私は商工会議所の会頭をしておりまして、商工会議所としても提言をしていますので、その中でやはり観光で 14 万人のまちに 70 万人の人が来てくれる花火のまちということも大きく打ち出すべきだということも含めて、夏のキララまつりでも湖上花火を市に頑張ってもらいましたが、しょっちゅう花火が近くに見えるまちにもらうことも、90 回を超える全国規模の花火を行うまちとしても、もっと発信することを考えた中で、年間通して色々な花火大会ができたりとか、今の入場者数を遥かに超えるような形で会場を変更しても安全に開催できて、お金が落ちるような仕掛けづくりを会場を変えてもやっていくべきだと提言をしていますので、是非中活とあわせて色々な団体の提言を市としても活かしていただきたいと思っています。

(佐藤委員 (部長))

土浦全国花火競技大会も 100 周年大会に近づいてきていることもありまして、1 回だけでお客様が 60 万人 70 万人というお客様が来ているわけですけど、商工会議所から提言をいただいて今後 100 年に亘って行っていくということの中でも、花火のまちという

ことで大曲の花火大会のように季節ごとの花火とかが考えられるのかなということ、100周年に向けて行っていききたいと思う所がございます。それが中心市街地ということになりますので土浦市は花火のまちというイメージで、大きな集客と交流人口の増加に繋げていくことを意識すべきと思っています。イベントというところでは、インバウンドの話もありましたが、キララまつりについて山車の巡航などもあります。我々は季節の風物詩と見ていますが、外国人の方からは、東洋の神秘、素晴らしいという意見もありますので、そういう新しい視点も取り入れていく時期なのだろうなと思いますし、それが新しい中心市街地の活性化に繋がると思いますので、それを意識しながら花火やイベントを継続していくべきと感じております。

(大久保(高木委員代理))

代理で出席していますが、苦情を申し上げたいのですが、この資料、4月と記載されていますが、なぜこれを今配布するのか、本当に検討していただきたいなら事前に配布すべきではないかと思えます。もう一つ気になるのは、この計画はハード的なものばかりでソフト的なものが全然無い気がするのですがいかがでしょうか。

(長坂係長)

今後、事前に配布できるなら検討していきます。

また、今回説明した中でハード事業が色濃いとのことですが、資料①の157ページをご覧ください。こちらに事業の名称を記載していますが、特に赤色で示している事業について、イベント等のソフト事業を展開したいと考えています。

(中川会長)

確かにこのボリュームだと、ある程度時間が無いと目を通すことができないかと思えますね。

(横山委員)

今のは、勘違いだと思います。これは令和6年なのでこれは案の状態、ここで協議いただくということで、市役所としてもどこにも提出していないものだと思います。これが令和5年なら今のような話になると思います。

(中川会長)

当然だと思いますが、少しでも早く準備ができるとうまいなと思えますね。今日の部分も含めて変更していく部分があると思えます。あと個人的な考えなのですが、茨城県の人口が増える地域というのは、TXの沿線である守谷、つくばみらい、つくばの開発が進んでいて人口が増えている。それと牛久や土浦の微増もある中で茨城県南地区というのは、他の地区には無い恵まれた地域だと思いますし、こういう計画を練りながら人口を増やすということもそうなのですが、例えばハード的にTXが常磐線に結束するということが知られた時点で、市内や県内の業者がここでマンションを作ったりするとかではなく、ここを魅力を感じる首都圏のデベロッパーや開発業者が魅力を感じて、どんどん進出してくることが基本なのだろうと思います。土浦は昔から商都であり交通の要所で発展した地域であり、大都市と自然環境を兼ね備えた地域であります。本来ならアンケートの中では地元の人々が観光地として魅力を感じないと思うかもしれませんが、周りの人たちが魅力を感じることを手段として、先ほどの鈴木委員の話にもありましたが、色々な形で発信をするということを考えていくのも重要だと思います。ここでの数字での何件増やすというようなことよりも、土浦にTX繋がるということのほうが効果絶大だと思います。個人的な意見として、緻密な計画を否定するものではありませんが、それくらい大きな意味があると思っています。特に羽田空港まで乗り換えなしで行けるようなまちであるということだけでも魅力があるし、全国的にも発信できていると思えます。それはJRさんのおかげで、あと数年で乗り入れも間違いないということになるであろうことも、大きな意味があると思えます。市も頑張っています。市が努力していないというわけではありませんが、大きな方向性の中でまちが発展していくのだと思っています。

(川野委員)

先日甲子園に出場した土浦日大の話ですが、17:15に土浦駅に到着する旨の連絡があり、30人がときわ69号の10号車に乗っているということで、半日かけて当駅では横断幕やマスコットキャラクターなどの用意や土浦市長への連絡をし、お迎えを行いました。そういった意味では駅は拠点なのかなと思っていて、私どもJRは商売なので利用していただくのはもちろんですが、社長の方針として地元自治体と協力し合うということを常に言っていますので、地元貢献しながらお互いに成長していくことを心掛けています。先日のキララまつりでも出店して地元の方に喜んでいただくイベントを開催したり、また、サイクリングのまちでもあるので、サイクリングの拠点駅というところでは、利用しやすさも追及して、まちに潤いを持たせようと考えています。また今後サイクリングに関して利用しやすい首都圏からも人が来ていただける施策も考えています。まだはっきりとお伝えできませんが、間もなく発表できると思います。楽しみにしていただければと思います。

(中川会長)

今年はJRと茨城県がディステーションキャンペーンを行っており、JRをあげて茨城県を応援してくれる中で、土浦駅としても是非ディステーションキャンペーンをよろしくお願ひしたいと思ひます。

(川野委員)

本当に21年ぶりのディステーションキャンペーンなので、水戸支社全力をあげて取り組んでいるというところがございます。今回は体験王国茨城ということでキャンプとか自転車とかを打ち出しています。今までだと旅館があつて観光地があつて、ここに来てくださいというPRでした。今回は新しい取り組みで、キャンプや自転車などの体験で茨城県を楽しみませんかというものになっていますので、そういう面では土浦はPRしやすい所なので、それを踏まえてキャンペーンに合わせて何かできないかと今先ほど話しました政策を間もなく発表できるのかなと思っています。

(的場委員)

モール商店会長と土浦商店街連合会会長を務めさせていただいています。先ほどの市の補助金で私どもの商店会で今年4件増えています。この2年で10件以上増えています。コロナ禍で何故増えているのかと思ひましたが、つくばより土浦のほうが賃料が安いしモールは駐車場もあるしということで選んでもらっているという感じですね。私も商店街に関わるものとして頑張っていきたいと思っています。

(堀越(池田委員代理))

農業というところでは、中心市街地活性化には何も思い当たりませんが、前回議事録での組合長の発言で健康事案で色々やっている中では、人が集まる場所を提供しているところですね。今会長から聞いた話では、イメージは湧きませんでした。モール505でコロナかでも空き店舗に入ってくれたという話ですが、やはりハード事業なりを整備して補助事業があると思ひますが、二期計画の課題の中で継続的な新規出店・起業者の確保、魅力的な商業店舗の出店ということで課題が掲げられていますけど、待っているだけでなく、空き店舗を有するテナントさんや事業者さんがいれば、出店希望者を土浦に市や商店街の皆さんで引っ張ってくるということも考えられるのかなと思ひました。

(中川会長)

中心市街地というところ、蓮の花が綺麗に咲き誇っている時期かもしれませんが、まだまだ蓮の綺麗な花が一面に見られるという、日本一の中心市街地から見られる農地もあるので、商業・農業・スポーツも含めて、色々なものが駅前を中心に味わえることは素晴らしいと思ひます。市もレンコンフェアであるとか関東鉄道さんのバスにもレンコンをPRする広告が掲載されていますね。

(佐藤委員)

最近、埼玉の方ですが投資用のマンションを探していることで、なぜか聞いたら TX が来ると聞いたのでということでした。気が早い人だなと思ったのですが、つくば市は価格が高いので土浦に買おうという人が少し増えているので、先ほど会長もおっしゃっていましたが、できるのは先だとしてもそういう情報が出ていると、それにつられて多くの人が出てくるので、情報をどんどん出していただけたらと思います。

(中川会長)

方向性を見るだけでなく、色々なことを色々な場所の方が動いているわけで、非常に発信というのは貴重だと思いますね。

(永井委員)

土浦市歴史的風致維持向上計画が今年度中ですかね、認可される予定なのですが土浦市さんの基本計画が被るところがあると思います。例えば資料②の第三期計画の目標の達成のための事業の中の観光施設の整備・活用、アクセス性の向上等による観光客が訪れるまちづくりに資する事業の部分での⑤歴史的建造物の整備・活用事業と③の亀城公園整備・活用事業、この辺は向上計画でも色々考えているようですが、どのように中心市街地活性化基本計画と土浦とリンクしてくるのか、バラバラの方向でうまくやっていくのか、向上計画でもそれだけでなく、レンコン栽培でも10年以上事業として活動していますし、花火もそうですが、その辺はうまくやっていくのかどうなのかお聞きしたいです。

(福澄課長)

土浦市歴史的風致維持向上計画も認定を目指しています。もちろん中活もですが、今回特に、おもてなしゾーンの亀城公園側を重点的にしています。今までは駅周辺の施設、できればりんりんポートであるとかの湖畔での施設。今回は地図で示すエリアを重点的に事業を行っていきます。

当然、向上計画と中活連動しながらですが向上計画はエリアが広いのですが、特に中心市街地では手厚く検討させていただいております。

(内村委員)

起業者数や新規出店者が増えてきているというところは、市内なのか市外の事業者さんが複数の店舗を出店しているのか、そういった店舗がわかるようなですね。先程も新規出店する起業者を呼んでくる必要があるという話もありましたが、土浦市中心市街地に出店するメリットというか対象とする所を明確になると、もっと新規の起業者が増えてくるのかなと思いました。その辺の分析がどうなっているのかなというのが聞きたかったです。

(福澄課長)

開業支援事業を行っていく中で色々な業種の方が出店されている状況ですが、市外の方で出店される方もいますし、市内の方もいますし、結果としてどうかというところは調べてはいません。

(関委員)

先ほども竹中委員が言っていましたが、新規出店・起業された方が1年後2年後残ってやってくれているのか。入れ替わっている所が結構あります。新規出店を同じ場所で3回やりましたということでは、結果としては1つではないかと思うわけで、実質的にこの数字が埋められるよう考えてほしい。どういう業種がどこで出店しているかも含めて総合的に出店者を増やすことを考えないといけない。新しいマンションを見ても毎年周辺の方が半分ぐらいで、東京圏から来ているのが3分の1、他はそれぞれという感じですが。周辺の人口を食っているだけでは、逆に土浦圏の力が削がれる。全国から集まってくるというような状況を作るために魅力度を上げることが一番なのかなと思います。



(清水委員)

休日のにぎわい創出と交流人口の増加に関しては、鈴木委員の言った通りで、県外へのPRが大事だと思います。前回の会議での話ですが土浦といえば「これ」というのが1つあれば良いと思って、土浦の花火というのは全国でも通用していますよね。できれば通年通して大きな目玉があるといいなと思っていて、先程聞いていたら花火を年に何回か、例えば四季ごとに開催というのはいいなと思いましたし、そういう取り組みや、あとはサイクリングですね。こんな強みは無いですし充分伝わっていますが、これをさらに年間色々なイベントを企画して1年間を通して切れ目無くして、人が足を向けるような雰囲気を作っていけたらいいのかなと思います。あとは、まちなかの居住人口の増加に関してですね、仕事柄茨城県外によく行くのですが、県外の知り合いとの話で、茨城は良い所だ、土浦は良い所だと自慢をすると、良いコメントもあるがネガティブなコメントもありまして、霞ヶ浦は水が汚いと言われてたりします。ただ会長からもあったように、水の浄化も毎年やっているとのことで、そういうことをしっかりアピールすれば、霞ヶ浦は水が綺麗になっているということが伝わり、居住人口の増加に良い影響があるかと思えます。あともう1つですが、土浦でなくて茨城県は治安が悪いと良く言われます。市民ニーズで子育ての支援充実を重視していますが、治安の向上という部分で、ここは移住する時非常に大事なポイントになっていまして、私も調べてみたら、茨城県は自動車の盗難がこの上半期で全国で5番目に多く、それだけ自動車の盗難が多い。あと住宅の窃盗が全国で7番目に多いというのを見て愕然としましたが、茨城県でなく、県南や土浦市は県内でも治安は良いというアピールができるデータがありましたら、教えていただきたいと思えます。

(中川会長)

防犯もそうですし、災害も医療関係もそうなのですが、安全に関するまちの特徴を出していただく形で、安全なまちであることをアピールすることも非常に大事だと思います。

(石田委員)

駅近くに住んでいますが、平日には人出がありますし、サイクリングの人もたくさんいますけど、その先が行くところが無いと困っているようです。あと食事する場所も無いようですし、若い人はバスに乗ってイオンに行ってしまうわけですね。イオンはいつも混んでいます。だから駅前から亀城公園までその間に関連施設をというか、亀城公園あたりの土地が空いているので思うのですが、会議所も古いですから表通りに移転して、その一帯に関連する観光関連とかの施設やそういうものがあると良いかなと思います。例えば趣味にはいくらでもお金を使うと聞きましたので、その関連施設の1階とかに趣味に関する施設を作ったり、花火の館とかですね。駅から一番離れた亀城公園付近に作れば、駅から人が移動するのではないかなと思いました。

(酒井委員)

先ほども会長からもありましたが、噴水の話はそうだなと改めて思いまして、要するに行く目的が無いとなかなか行かないのですよね。だから噴水があるなら駅の東口に行くと思いますし、皆さん色々やっているのですけど、例えばアクセスディンギーって絶対倒れないヨットがありまして、土浦も4隻持っているんですよね。それをうちの事務所の人は誰も知らなくて、10年以上前からあると思うのですが、例えばサイクリングとヨット、あと小町の里のほうにはパープルラインがありますし、そうしたものの繋がりをお知らせするのがもうひとつ弱いのかなと。埼玉県の差間銀行のアプリには地元のクーポンが付いていて、差間銀行のアプリを取得するとクーポンが付いてきて、例えばソフトドリンクの料金割引とか地元の商品が割引とかありまして、それをそっくりそのままやるというのは難しいかもしれませんので、例えば地元にいる人やつくば市の学生さんが、そういうアプリを持っていると魅力になって、通知が来てイベントが知らせられるとか、そういう工夫ができると良いかなと思います。

(寺田委員)

我々商売上のことを言えば、来訪者の方がタクシーのご利用で他県・他市から来られて、土浦で楽しい所ありますか？とか、おいしいお店を紹介してくださいとか、最近これはテレビでもやっていますが、実際そういうテレビの取材なんかは当社の運転手も受けております。例えば中心市街地活性化で長期計画に基づいて色々整備されていって、この中でソフト事業はどうなのかというお話もありましたが、これをタクシー運転手とか末端の所にどうやって落とし込んでいこうかというのが、私ども業界の課題なのかなと思いました。一方でこの業界の運転手は結構評判が悪いのがたくさんおまして、各社のホームページを見ていただくと、こんなひどいのがいるのかとか、たまにお褒めをいただいているものもありますが、苦情が山のように出てきます。そういう意味では、業界としてもマナーコンテストを年に1回行っていまして、接客力の向上に取り組んでいますけど、改めて地域資源などを各自に落とし込んでいって、向上させていくということに取り組んでいければと思っております。先ほどマンションの話で県外からという話がありましたが、土浦の老人ホームですね。ここ意外と他県から入居者が来ています。私の知っている方だと名古屋や岐阜あたりの人ですね。東京あたりをも考えたのでしようが、やはりそこは価格というところだと思いますし、そういう方がたくさんいます。若い人もそうなのですが、寝たきりじゃない高齢者をまちなかに引っ張り込んでくるというようなアイデアが出てくれば、また面白いのかなと少しだけ思いました。

(中川会長)

それでは大澤先生より総括的なご意見を、お願いいたします。

(大澤副会長)

私は市の策定委員会にも所属してまして、本日はたくさんのご意見をいただきました。その中で気が付いたことが大きく3つありまして、1つは言い訳になるかもですが、内閣府の思惑があって言いにくいのですが、どうしても数値 KPI 主義になってしまっているということ。いわゆる数値目標ばかりになってしまっているというのが反省点だと思いました。先ほど寺田委員、石田委員からもありましたが、それらの現場の声をどこをどう反映していくのかというのが大事かと思いました。2つめですが、先程酒井委員からの質問でアプリの話もありましたが、スキームというかやり方について書きにくい所もあるので、取り入れられないかなと思う所もありますし、会長からもありましたが、懐刀とかまちづくり 100 年と言われていますが、そういう視点も組み込むべきかなというのが反省点になります。3つ目ですが、最近 DX と言われていますが、やはり GX ですね。最近「グリーン」の話が出てきている中で、グリーンを積極的に取り入れられるのは、土浦かなと思いました。やはり霞ヶ浦があるからという所ですね。この書きぶりをもうちょっと強化すれば良かったのかなと感じた次第です。花火の件に関して中国の留学生の件ですが、花火と言えば中国が原型だと思うのですが、何故日本の花火が好きなのかと聞くと、金魚すくいなどの日本文化を味わえるようなものは中国には無いと言います。そういうものを活かすだとか、また寺田委員が言った老人ホームの話が面白いなと思まして、そういった方をどうやって引っ張り出して、賑わいに繋げていくのかという所でたくさんアイデアをいただいたと思っています。今日は私自身が大変勉強になったと思っております。ありがとうございました。

(中川会長)

ありがとうございました。皆様の多方面からのご意見・ご指摘をいただきました。本日のご意見・ご指摘を次回の協議会には意見書の素案を示せるように事務局にて、しっかりと取りまとめをお願いしたいと思います。ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

(事務局)

次回 11 月中に開催することを報告した。